

連盟だより

公益社団法人 日本精神保健福祉連盟

Japan Federation for Mental Health and Welfare



2020-10.1

通刊 68号



新型コロナウイルス感染症に関する メンタルヘルス対応について

公益社団法人日本精神保健福祉連盟 常務理事 大西 守

新型コロナウイルス感染症は依然として収束の気配が見えず、落ち着かない毎が続いています。ご命を落とされた方はもちろん、多くの感染者・そのご家族、関係者の皆様は心よりお悔やみ・お見舞い申し上げます。また、医療の最前線で日夜ご対応に当たられている医療関係者・行政関係者の方々に深く感謝申し上げます。(公社)日本精神保健福祉連盟といたしましても、関係諸機関と連絡を密にしながら、全力で対応に取り組んでいるところです。

さて、今回の感染症に関しては、3つ感染症に分けて考えることができます。第1の感染症とはまさに、疾病を意味する生物学的感染です。そして第2の感染症が、未知の感染に対する不安や恐怖といった心理的感染症です。マスク不足や、トイレトーパーが品切れになった状況がその典型でしょう。そして第3の感染症として考えられるのが、不安や恐怖心から生じる嫌悪・差別・偏見といった社会的感染症です。治療に当たった医療関係者・家族に対する一部の心無い対応は誠に残念なことです。そして、ほとんど声を挙げるできない弱い立場にある障がい者・ご家族にとっても深刻な影響をもたらしています。

そこで、自宅待機 (STAY HOME) が長期化したことによって生じるいくつかのメンタルヘルスに関わる懸念事項をまとめてみましょう。

1) 認知症の悪化、2) 統合失調症の当事者が家族などから過度に干渉される (High EE)、3) 虐待やDVの増加、4) 摂食障害当事者のコントロール不全、5) うつ病・双極性障害の不安定・増悪、6) 自宅での飲酒量の増加、7) 若者を中心としたゲーム依存の増加など、さまざまなことが考えられます。もちろん、国民が感じている先の見えない言いよ

うのない不安も忘れてはなりません。

なかでも、統合失調症の当事者・ご家族について、もう少し詳しく説明します。1番に感じられるのが、日中活動の場が奪われていることです。多くのデイケア施設、就労支援施設、地域生活支援センターなどが一時的に休みになったり、活動日数や活動時間の削減が実施されています。そのため、自宅待機・テレワークになった方も多いでしょうが、生活リズムを維持することが難しく、活動量も減ってしまいます。したがって、就寝・起床時間をしっかり守る、決まった時間に食事をする、適度に散歩や陽に浴びるといったことが大切です。また、ご家族も在宅勤務や休校になって、顔を合わせるが多くなります。どんなに仲の良いご家族であっても、四六時中顔をつき合わせていると些細なことでぶつかってしまうものです。そのため、別々の時間を意識して作り、家の中でも可能な範囲で物理的距離を取ることも重要です。さらに、外来受診の間隔が開いたりデイケアに通えないことで、いつも相談に乗ってもらっている主治医やスタッフ、仲間と会う機会が少なくなり、身近に相談できる人との接触が減ってしまいがちです。必要な相談が生じた際には、我慢せずに電話やメールでもよいので早めに連絡を取るようになしてください。

(公社)日本精神保健福祉連盟といたしましても、引き続きさまざまな形での支援を進めていく所存です。会員各位におかれましても、ますますのご協力・ご尽力をお願い申し上げます。

全国障害者スポーツ大会精神障害者バレーボール競技 ～2020年度の経緯～

公益社団法人日本精神保健福祉連盟 精神障がい者スポーツ推進委員会委員 田所 淳子

精神障害者のスポーツ事業は、今や社会参加活動の一つに確と認知されるようになりました。そのきっかけはやはり全国障害者スポーツ大会（以下「全国大会」）への参入でしょう。その後、日常に取り組める精神障害者のスポーツ種目は瞬く間に豊かになりました。

さて、その全国大会、2019年は茨城県で開催される予定でした。バレーボールに続き精神障害者種目として卓球競技が初開催の予定でしたが、おりしも台風19号により茨城県での全国大会は叶いませんでした。直前の情報が混乱する中、選手も関係者も大変だったことを思い出します。

2020年10月鹿児島県での全国大会を選手たちは楽しみにしていたことでしょう。ところが今春からの新型コロナウイルス。予選会は開催するのかもしれないか、選手も関係者も臍を揉んだことと思います。残念ながら感染が拡大する中、予選会はどのブロックでも実施が危ぶまれました。では代表はどのように決めるのか。そこで、当連盟と（公財）日本障がい者スポーツ協会（以下「日障協」）は何度となく情報交換、調整をいたしました。不測の事態における要綱などの規約がほぼ無いに等しかったこともあり、内規を検討しました。その後、2020年3月、日障協より全国の行政、関係団体等に「ブロック予選会の開催可否」「ブロック予選会が実施されない場合の代表選考」についての指針が通知された次第です。

それを受けて、バレーボール種目に関しては全ブロックでの予選大会は中止。代表選考に関して各ブロックで検討がなされ、一定の結果が出ました。

- ・全国大会開催前に選考方法を再検討する（1ブロック）
- ・抽選でブロック代表を決定した（1ブロック）
- ・検討後、2019年茨城県での全国大会に出場予定であった代表府県市を2020年のブロック代表とした

（4ブロック）

しかし、コロナ禍の元、鹿児島県知事は6月、「2020年の全国大会は中止」と判断されました。よって、各ブロックの代表は5ブロックで決定していましたが、無念にもプレーできないことになった訳です。

鹿児島県は「開催の延期を希望」とのこと。後催県や日障協など関係団体で協議していますが、鹿児島県で数年後に開催できるのか、あるいは鹿児島県での全国大会は実現せずに終わるのか、結論は出ておりません（2020年8月現在）。オリンピック・パラリンピックもさることながら、全国大会も、2021年に開催できるのかどうか愁思されるコロナ禍の昨今です。どうか、選手や指導者、サポーターの皆さん、心折れないで日々の研鑽を積んでほしいと思います。近い将来、新型コロナウイルスを恐れずにまたスポーツができる日が来ることを願っています。



令和2年度精神保健福祉事業功労者表彰

厚生労働大臣表彰受賞者 個人（都道府県推薦）

青森県	牧口 幸一 津軽保健生活協同組合藤代健生病院（医師）
岩手県	小井田 潤一 岩手県立一戸病院（医師）
宮城県	吉田 卓夫 医療法人吉田報恩会春日療養園（医師）
宮城県	姉齒 純子 医療法人財団姉齒松風会なごみの里サポートセンター（看護師・精神保健福祉士）
秋田県	稲村 茂 メンタルクリニック秋田駅前（院長）
山形県	渋谷 磯夫 尾花沢病院（医師）
福島県	渡部 学 こころのクリニック（医師）
茨城県	大垣 悠子 医療法人慈政会小柳病院（医師）
栃木県	山田 薫 医療法人至誠会滝澤病院（医師）
群馬県	武田 滋利 西毛病院（医師）
埼玉県	高橋 好洋 登校拒否文化医学研究所（臨床心理士）
千葉県	中村 はるみ 心の相談室「オフィス ド ポーム」（臨床心理士）
神奈川県	野地 悟 特定医療法人清輝会国府津病院 法人役員
神奈川県	上村 誠 溝の口メンタルクリニック（医師）
新潟県	染矢 俊幸 新潟県精神保健福祉協会 会長（医師）
石川県	林 清之 医療法人社団浅ノ川桜ヶ丘病院（看護師）
福井県	武藤 寛 たけとう病院（医師）
山梨県	關本 里枝 特定非営利活動法人さくらハウス石和 法人役員
長野県	轟 純一 医療法人鶴賀会鶴賀病院（医師）
岐阜県	北原 二三雄 医療法人清澄会不破ノ関病院（看護師）

静岡県	守屋 博久 NPO法人精神保健福祉みどり会 副理事長
愛知県	草塩 眞知江 NPO法人メンタルネットワーク稲穂 理事長
愛知県	岡田 寿夫 医療法人寿康会大府病院（医師）
三重県	宮崎 學 公益社団法人三重断酒新生会 理事
滋賀県	横野 文 社会福祉法人青祥会セフィロト病院（医師）
大阪府	井村 昭三 前久保クリニック（医師）
大阪府	河野 宗靖 一般社団法人大阪府断酒会 参与
兵庫県	古橋 淳夫 医療法人古橋会揖保川病院 理事長・院長
奈良県	玉尾 隆 奈良市断酒会 相談役
島根県	島本 恵子 社会福祉法人シオンの園ございな（准看護師・精神保健福祉士）
岡山県	安東 眞理子 美作市社会福祉協議会評議員精神障害者家族会 代表
広島県	増田 勝幸 比治山病院（医師）
山口県	原田 由紀子 医療法人清和会吉南病院（看護師）
愛媛県	木村 尚人 一般財団法人創精会松山記念病院 代表理事（医師）
福岡県	蓮澤 浩明 医療法人信和会大牟田保養院 理事長（医師）
佐賀県	濱田 芳人 医療法人浄心会園田病院（医師）
熊本県	宮本 憲司朗 医療法人山田会八代更生病院（医師）
大分県	衛藤 龍 医療法人社団親和会衛藤病院（医師）
宮崎県	井上 雅文 医療法人清芳会井上病院（医師）
沖縄県	照屋 恵子 沖縄県総合精神保健福祉センター 精神医療審査会 委員（保健師）

厚生労働大臣表彰受賞者 個人（公益社団法人日本精神保健福祉連盟推薦）

宮城県	笠原 英樹 医療法人社団百合樹会かさほらクリニック 院長
福島県	佐久間 啓 社会医療法人あさかホスピタル（医師）
福島県	吉田 仁一 社会福祉法人郡山社会事業協会 あさかの里 役員・監事
群馬県	新川 ひな子 医療法人社団山崎会サンピエール病院（看護師）
千葉県	内山 真 医療法人社団山崎会サンピエール病院（医師）
東京都	田邊 英一 医療法人社団じょうどう慈雲堂病院（医師）
山梨県	柏木 定男 公益社団法人全日本断酒連盟 監事
岐阜県	田口 真源 医療法人静風会大垣病院（医師）
静岡県	山岡 功一 医療法人社団澤記念会神経科浜松病院（医師）

三重県	田米 郁子 松阪厚生病院（看護師）
滋賀県	関戸 聖次 一般社団法人水口病院（作業療法士）
大阪府	岡村 武彦 医療法人大阪精神医学研究所 新阿武山病院（医師）
島根県	妹尾 晴夫 医療法人青葉会松江青葉病院（医師）
島根県	杉浦 勝栄 公益社団法人全日本断酒連盟 参与
広島県	馬屋原 健 医療法人緑誠会光の丘病院（医師）
香川県	川田 知子 医療法人社団三愛会三船病院（看護師）
福岡県	神庭 重信 福岡県精神保健福祉協会 会長（医師）
大分県	向笠 浩貴 医療法人向心会大貞病院（医師）

鹿児島県 **横山 桂**
医療法人緑心会横山記念病院（医師）

沖縄県 **田崎 琢二** 医療法人社団輔仁会
嬉野ヶ丘サマリヤ人病院（医師）

沖縄県 **澤岬 治美**
医療法人一灯の会沖縄中央病院（看護師）

厚生労働大臣表彰受賞者 団体（都道府県推薦）

宮城県 **登米市精神障害者家族会ふくろうクラブ**
【代表】千葉 みや子

千葉県 **一般社団法人千葉県精神保健福祉士協会**
【代表】山崎 久之

石川県 **特定非営利活動法人高次脳機能障害患者と家族の会つばさ**
【代表】上口 由美子

広島県 **特定非営利活動法人貴船**
【代表】中元 寿文

徳島県 **精神保健ボランティア「ハートみよし」**
【代表】長内 和代

愛媛県 **伊方町精神保健ボランティアグループ「なぎさ」**
【代表】石田 満

厚生労働大臣表彰受賞者 団体（公益社団法人日本精神保健福祉連盟推薦）

佐賀県 **特定非営利活動法人佐賀県断酒連合会**
【代表】原 通

公益社団法人日本精神保健福祉連盟会長表彰受賞者 個人

宮城県 **沓沢 はつ子**
石巻市役所（保健師）

群馬県 **伊能 伸之**
医療法人社団山崎会サンビエール病院（看護師）

埼玉県 **荒井 範夫**
公益財団法人西熊谷病院 副院長・看護部長（看護師）

千葉県 **北村 敦子**
公益財団法人復光会総武病院 看護部長（看護師）

神奈川県 **春原 善治**
医療法人弘徳会愛光病院（医師）

神奈川県 **能 幸夫** 社会福祉法人湘南福祉協会総合病院
湘南病院（精神保健福祉士・臨床心理士）

富山県 **山越 祐人**
医療法人社団和敬会谷野山病院（准看護師）

石川県 **松田 久美子**
石川県立高松病院（看護師）

愛知県 **江口 研**
医療法人仁誠会大湫病院（医師）

滋賀県 **志賀 久美子**
滋賀県立精神医療センター（看護師）

大阪府 **矢口 博嗣**
医療法人杏和会阪南病院（事務）

大阪府 **飯森 勝司** 地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪府立精神医療センター（看護師）

奈良県 **岸本 年史**
奈良県立医科大学（医師）

和歌山県 **山崎 文三**
有限会社カネイワ醤油本店（会社員）

鳥取県 **杉原 雄嗣**
特定非営利活動法人鳥取県断酒会 理事長

島根県 **藤原 誠治**
公益社団法人島根県断酒会 副理事長

岡山県 **金本 生**
特定非営利活動法人岡山県津山断酒会 理事長

岡山県 **佐藤 修**
林道倫精神科神経科病院（看護師）

山口県 **遠藤 久美枝**
岩国刑務所（看護師）

山口県 **萩山 浩太郎**
特定非営利活動法人山口県断酒会 監事

徳島県 **下浦 誠司**
徳島少年鑑別所 法務技官・統括専門官（国家公務員）

徳島県 **安永 健吾**
特定非営利活動法人徳島県断酒会 理事・事務局長

香川県 **内海 啓子**
こころの医療センター五色台（准看護師）

香川県 **杉本 美恵子**
医療法人社団光風会三光病院（看護師）

愛媛県 **曾根 康義**
一般財団法人創精会（看護師）

高知県 **岡 俊之**
高知少年鑑別所 法務技官・統括専門官（国家公務員）

高知県 **曾我部 耕一**
高知刑務所 法務事務官・矯正処遇官（国家公務員）

福岡県 **二宮 英彰**
医療法人十全会回生病院（医師）

福岡県 **川尻 正之** 社会福祉法人北九州いのちの電話
電話相談業務・事務局長

長崎県 **尾崎 快枝**
医療法人檜山会中澤病院（管理栄養士）

大分県 **佐々木 一郎**
医療法人社団青樹会リバーサイド病院（医師）

大分県 **竹下 粧子**
竹下粧子クリニック院長（医師）

宮崎県 **山形 幸四郎**
特定医療法人浩洋会田中病院（事務）

鹿児島県 **今村 圭介**
医療法人公盡会出水病院（医師）

公益社団法人日本精神保健福祉連盟会長表彰受賞者 団体

青森県 **鶴田町精神障害者家族会「飛鶴会」**
【会長】福土 善則

群馬県 **特定非営利活動法人群馬県精神障害者社会復帰協議会**
【理事長】小暮 明彦

兵庫県 **公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構兵庫県こころのケアセンター**
【センター長】加藤 寛

奈良県 **精神保健推進員会「ここから」**
【代表】堀内 克子

広島県 **特定非営利活動法人福山みずほ断酒会**
【理事長】滝澤 豊

山口県 **山口県精神保健福祉協会**
【会長】中川 伸

福岡県 **北九州断酒友の会**
【会長】中村 学



動き movement

岩手県精神保健福祉センターの動き

岩手県精神保健福祉センター 所長 後藤 賢弘

皆様には、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止及び感染者への支援等に日々ご尽力されておられることと思います。その中で、岩手県では7月29日に県内初の感染者が確認されるまで、全国で唯一感染者ゼロの状態が続いていました。その理由としては、全国二番目の広大な県土ゆえの人口密度の低さや海外からの観光客の数の少なさ等が挙げられていますが、この間、感染者が出ていないからこそそのプレッシャーやストレス（第1号になりたくない、第1号になった際の世間体等々）もあったとされており、県では、「感染した人が悪いわけではなく、その人を咎めず、優しい気持ちを持って対応すること、また命と健康を守ること、感染を拡大させないことが重要」と県民に呼びかけていたところです。9月22日現在の感染者数は全国最少とはなっていますが、今後、他都道府県での事例等を参考にさせていただきながら、対応していきたいと考えています。

さて当センターでは、平成21年度より自殺死亡率が高率で推移してきた県北の二戸地域で自殺未遂者支援事業に取り組んできました。

特に平成24年度以降、救急外来を受診した自殺未遂者へのケアマネジメントを行っており、平成24年から30年12月までの利用者95人中、6年以内の再企図者は19人（20%）であったのに対し、未利用者（61人）では14人（23%）と再企図者の割合は利用者が低い結果となりました。生存状況についても、利用者のほうが生存確認された割合が高い結果となるなど、一定の再企図防止効果が認められたところであり、今後も事業継続と成果検証等に努めていきたいと考えています。

また東日本大震災以降、災害時におけるこのころのケア活動にも取り組んでおり、高齢者施設入所者9名が死亡するなど、大きな被害をもたらした平成28年8月の台風10号災害時にも、保健所、岩手医科大学精神医療チーム等と緊密に連携して、被害の大きい市町村への支援を行ったところです。

このほか「ひきこもり」「依存症対策」など、課題は山積していますので、少人数体制ではありますが、皆で協力し合いながら取り組んでいきたいと考えています。



動き movement

静岡県精神保健福祉センターの動き

静岡県精神保健福祉センター 所長 内田 勝久

静岡県精神保健福祉センターは昭和32年に静岡県精神衛生相談所が開設されたことに始まり、平成7年の精神保健福祉法の改正時に現在の名称となりました。

近年、私たちが特に力を入れている事業は、自殺対策、ひきこもり対策、依存症対策の三つが挙げられます。それぞれの事業について当センターが自殺予防情報センター、ひきこもり支援センター、依存症相談拠点として県内で中核的な役割を担っているため、各市町や保健所、関係機関等と緊密な連携をとりながら、必要に合わせて情報交換や研修会などを主催したり共催したりしています。最近の特に大きな動きですが、静岡県ではひきこもり対策の一環として、ひきこもりの状況調査を県内の民生委員・児童委員等を対象に行い、各委員が所管する地区にひきこもりとして認識している方たちがどれくらいいるのかを聞き取りました。今後はこの結果に基づき、センターとしてどのように市町と連携してひきこもり対策を推進していくのか、その方向性を決定

する必要があります。結果の詳細については、インターネットで「令和元年度静岡県ひきこもり等に関する状況調査の調査結果について」と検索していただけだと思います。

また依存症対策として相談事業に加え、様々な依存問題を抱える当事者が集う、認知行動療法を基本にしたグループミーティングを実施しています。現在の形のミーティングに移行して5年目になりますが、日々進化している事業であると自負しています。

さらにDPATの学校版といってもいいかもしれませんが、学校管理下で大きな事件・事故が起きたときに子供たちが深い心の傷を負ってしまうことを最小限にとどめるためのこのころの緊急支援活動も行っています。年に1回あるかないかの活動ですが、大切な事業であると捉えています。

県民の精神保健福祉の増進という根本を忘れることなく活動を続けていきたいと考えていますので、今後ともよろしく願いいたします。

公益社団法人日本精神保健福祉連盟役員並びに名誉会長一覧

2020年7月現在

1. 理事 (16名)		
【代表理事 2名】		
会長	鮫 島 健	公益社団法人日本精神科病院協会 名誉会長
理事長	鹿 島 晴 雄	国際医療福祉大学大学院教授・慶應義塾大学医学部客員教授
【常務理事 3名】		
常務理事	大 西 守	日本精神衛生学会 常任理事
	長 瀬 輝 誼	公益社団法人日本精神科病院協会 副会長
	竹 島 正	一般社団法人全国精神保健福祉連絡協議会 会長
【理 事 11名】		
理 事	小 島 卓 也	公益財団法人日本精神衛生会 理事長
	辻 哲 男	公益財団法人復光会 常務理事
	東小蘭 誠	公益財団法人矯正協会 企画調査室長
	伊 藤 聰	公益社団法人全日本断酒連盟 理事長
	吉 川 隆 博	一般社団法人日本精神科看護協会 会長
	田 中 慶 司	公益社団法人アルコール健康医学協会 理事長
	三 木 和 平	公益社団法人日本精神神経科診療所協会 会長
	宮 部 真弥子	公益社団法人日本精神保健福祉士協会 監事
	大 野 史 郎	公益社団法人日本精神科病院協会 理事
	高 畑 隆	一般社団法人全国精神保健福祉連絡協議会 理事
	田 中 正 博	一般社団法人全国手をつなぐ育成会連合会 専務理事
2. 監 事 (2名)		
	松 村 英 幸	公益社団法人日本精神科病院協会(医療法人社団根岸病院 理事長・院長)
	丸 山 晋	一般社団法人全国精神保健福祉連絡協議会 監事
3. 名誉会長 (2名)		
	保 崎 秀 夫	慶應義塾大学名誉教授
	仙 波 恒 雄	公益社団法人日本精神科病院協会 名誉会長

【 役員任期 令和元年6月14日より令和3年の定時社員総会終了まで 】

注1 公益社団法人日本精神保健福祉連盟定款
第27条(役員任期)によるものとする。

〈編集後記〉

連盟だよりNo. 68をお届けします。新型コロナウイルス感染症の影響から、4か月遅れての刊行となります。

本号をお読みいただければ分かりますが、この感染症の問題は当連盟の活動も含め、精神保健福祉分野においても深刻な影響を与えています。

残念ながら、本連盟と厚生労働省が主催する「第68回精神障害者福祉全国大会」も中止となりました。とはいえ、令和2年度の厚生大臣表彰者、連盟会長表彰者は別掲のように決まりました。受賞された個人・団体の皆様方に心よりお祝い申し上げます。

こうした未曾有の状況下、ますますの関係団体の皆様のご理解・ご協力をお願いする次第です。

(M. O.)

編集委員会

委員長 大西 守 公益社団法人日本精神保健福祉連盟常務理事
委員 高畑 隆 一般社団法人全国精神保健福祉連絡協議会理事
窪田 澄夫 一般社団法人日本精神科看護協会業務執行理事
中田 貴晃 キューブ・インテグレーション株式会社取締役
松井 知子 杏林大学元教授

発行 2020年10月1日

発行者 公益社団法人 日本精神保健福祉連盟

会長 鮫 島 健

〒108-8554 東京都港区芝浦3-15-14

TEL 03-5232-3308 FAX 03-5232-3309

Email : f-renmei@nisseikyo.or.jp

HP : http://www.f-renmei.or.jp